

東海経済レポート（2012年9月）

～東海経済は、当面踊り場～

<トピックス>対中依存度の高い東海地域の貿易

経済調査室（名古屋）

1. 足元の経済情勢

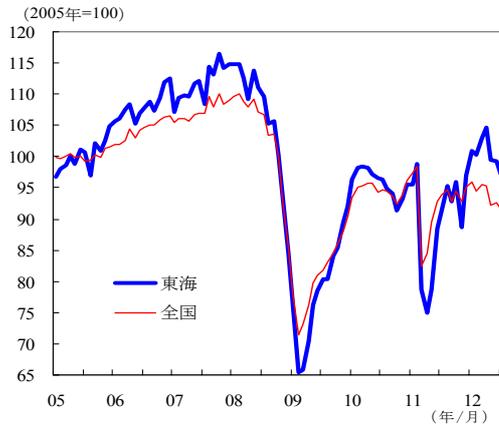
東海地域の景気は、急速な持ち直しが一服し、踊り場にある。

- ✓ 生産は、7月に前月比▲2.1%と3ヶ月連続のマイナスとなった。エコカー補助金終了前の駆け込みをにらんだ増産から輸送機械はプラスに転じたが、輸送機械以外は概ねマイナス。
- ✓ 輸出は、8月に前年比+7.3%と7ヶ月連続で増加。自動車関連を中心に前年の低い水準からの正常化が続いているが、改善ペースは鈍化傾向。
- ✓ 設備投資では、設備投資の先行指標である金属工作機械の国内受注額が、7月は前年比▲4.2%と2ヶ月連続でマイナス。
- ✓ 雇用は、7月の愛知県の有効求人倍率は1.19倍と14ヶ月ぶりに低下した。他県も同じく頭打ち。
- ✓ 個人消費では、7月の新車販売台数が前年比+44.8%と好調である一方、大型小売店販売（既存店）が2ヶ月連続のマイナスとなった。住宅着工も2ヶ月連続のマイナス。

2. 当面の注目点・リスク要因

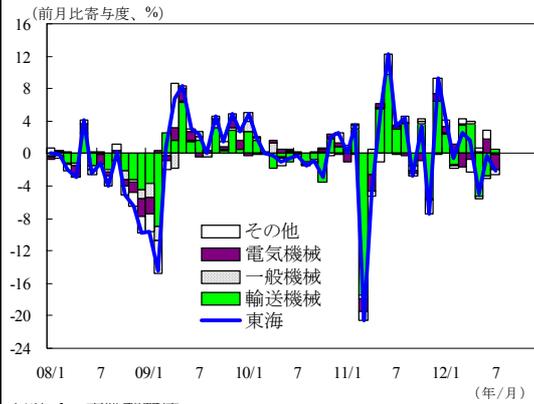
- ✓ エコカー補助金が終了する秋口以降、国内向け自動車販売のピークアウトを受け、完成車の生産は減速すると見込まれる。そうした中、輸出持ち直しの先鋒として期待された中国との間で尖閣諸島を巡り政治・経済関係が緊迫化。当面、日本製品に対する中国消費者の不買行動なども含めた事態の推移が注目される。
- ✓ また、米国の「財政の崖」や中国景気減速の長期化、欧州債務問題などをきっかけとする、世界経済の一層の減速、急速な円高等には引き続き警戒が必要である。

生産① 7月の鉱工業生産指数は前月比▲2.1%と3ヶ月連続で減少。



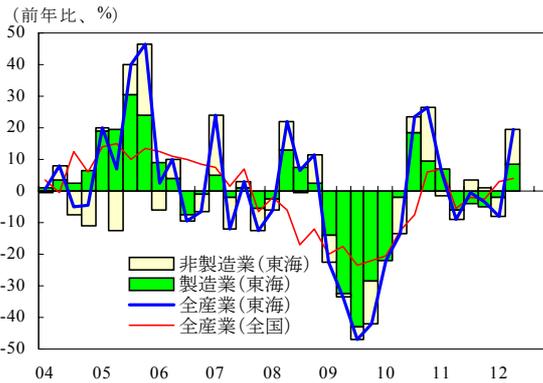
(注) 東海は愛知・岐阜・三重の3県
(資料) 中部経済産業局「管内鉱工業の動向」等より
三菱東京UFJ銀行経済調査室作成

生産② 業種別では、一般機械と電気機械が減少し、輸送機械は増加。



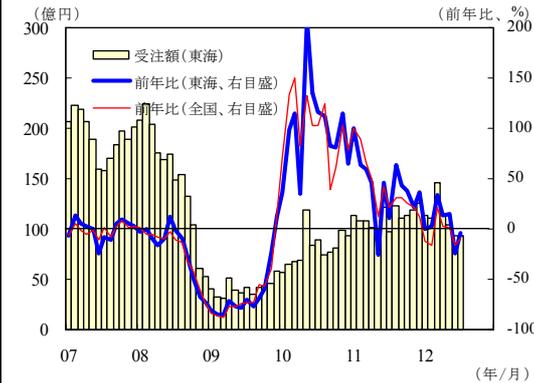
(注) 1. 季節調整値
2. 東海は愛知・岐阜・三重の3県
3. 電気機械は電子部品・デバイス等を含む旧分類
(資料) 中部経済産業局「管内鉱工業の動向」より
三菱東京UFJ銀行経済調査室作成

設備投資 4-6月期の資本金10億円以上の大企業の設備投資(除くソフトウェア)は、前年比+19.6%とプラスへ転じた。



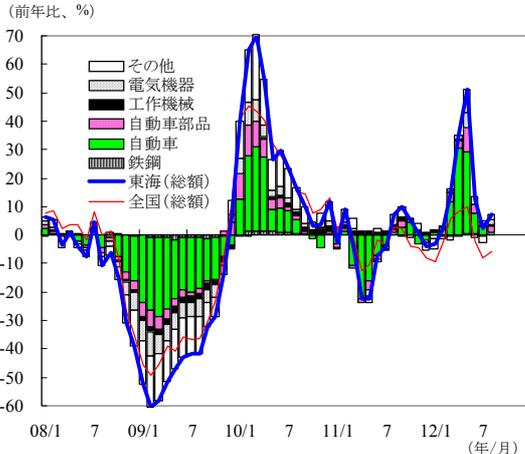
(注) 1. 東海は、愛知、岐阜、三重、静岡の4県
2. 資本金10億円以上の企業を対象
(資料) 東海財務局「四半期別法人企業統計調査」より
三菱東京UFJ銀行経済調査室作成

金属工作機械受注 設備投資の先行指標である金属工作機械の国内受注額は、7月は前年比▲4.2%と2ヶ月連続で減少。



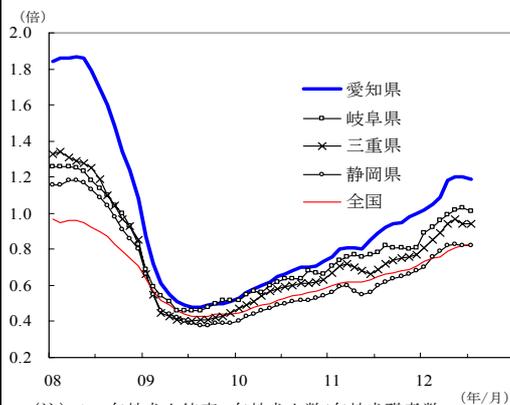
(注) 1. 東海は中部経済産業局管内の主要8社
2. 受注額は当室による季節調整値
(資料) 中部経済産業局「金属工作機械受注状況」等より
三菱東京UFJ銀行経済調査室作成

輸出 8月の輸出額は、前年比+7.3%と7ヶ月連続で増加。



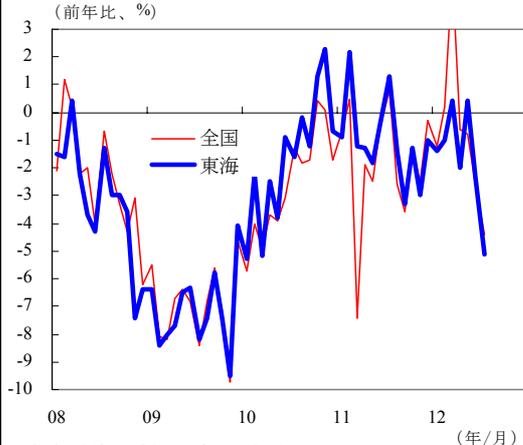
(資料) 財務省「貿易統計」、名古屋税関「管内貿易概況」より
三菱東京UFJ銀行経済調査室作成

雇用 7月の愛知県の有効求人倍率は1.19倍と、14ヶ月ぶりに低下。他県も同じく頭打ち。



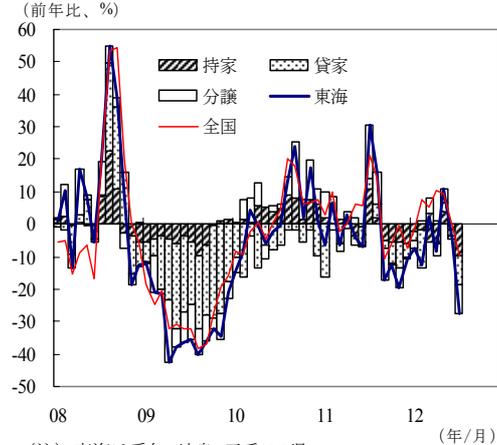
(注) 1. 有効求人倍率=有効求人数/有効求職者数
2. 季節調整値
(資料) 厚生労働省「一般職業紹介状況」より
三菱東京UFJ銀行 経済調査室作成

個人消費 7月の大型小売店販売額(既存店)は前年比▲5.1%と2ヶ月連続で減少。



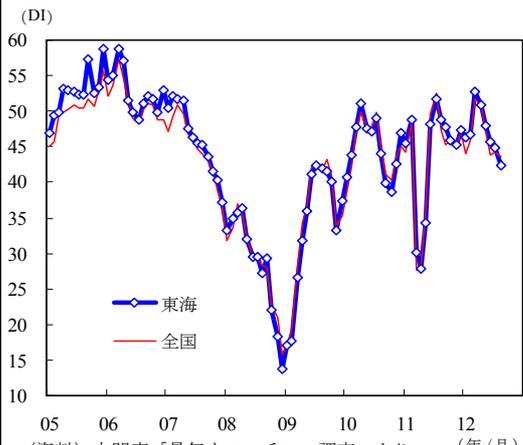
(注) 東海は愛知・岐阜・三重・富山・石川の5県
(資料) 中部経済産業局「管内大型小売店販売概況」より
三菱東京UFJ銀行経済調査室作成

住宅投資 7月の住宅着工戸数は前年比▲27.3%と、大幅に減少。



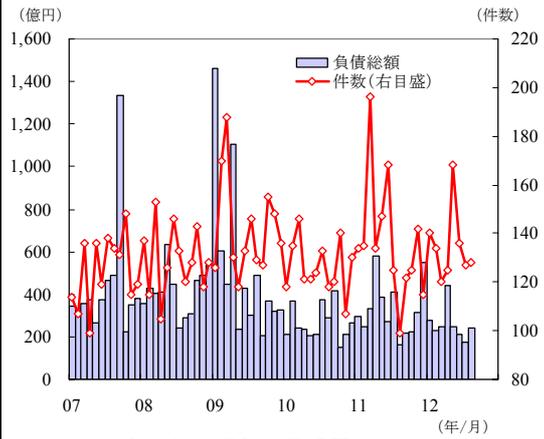
(注) 東海は愛知・岐阜・三重の3県
(資料) 国土交通省「建築着工統計」より
三菱東京UFJ銀行経済調査室作成

景気ウォッチャー調査 8月の景気現状判断DIは+42.4と5ヶ月連続で低下。



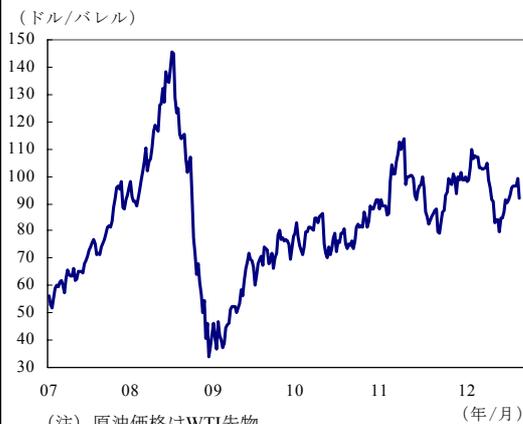
(資料) 内閣府「景気ウォッチャー調査」より
三菱東京UFJ銀行経済調査室作成

倒産件数 8月の企業倒産件数は128件と増加(前年比で+29.3%)。負債総額は同+49.2%と増加。



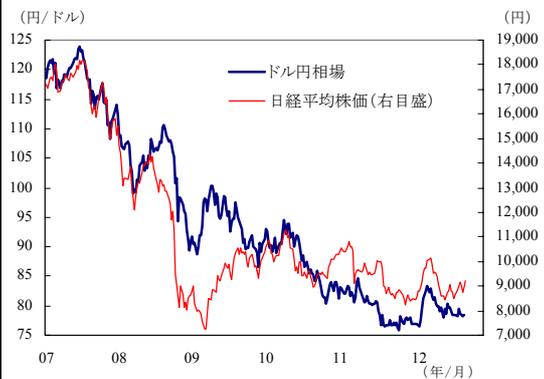
(注) 愛知・岐阜・三重・静岡・長野の5県
(資料) 東京商工リサーチ「倒産月報」より
三菱東京UFJ銀行経済調査室作成

原油価格 サウジアラビアの増産発表と米国原油在庫の増加等を背景に、90ドル前半まで小反落。



(注) 原油価格はWTI先物
(資料) Bloombergより三菱東京UFJ銀行経済調査室作成

円相場・株価 底堅い米国経済指標と日米金融緩和を受け、株価は上昇。ドル円相場は80円弱の円高水準で推移。



(資料) Bloombergより三菱東京UFJ銀行経済調査室作成

<トピックス>対中依存度の高い東海地域の貿易

▶ 中国が最大の貿易相手国

日本政府による尖閣諸島の国有化に抗議する中国の反日デモは収束し、一時的に閉鎖に追い込まれていた日系の店舗・工場も概ね再開された。しかし、日本製品に対する中国消費者の不買行動の発生など様々な懸念はまだ払拭されておらず、今後の事態の推移が注目される。加えて、中国の税関当局が日本からの輸入品に対する検査率を引き上げるなど通関が滞る動きが出始めた模様で、中国での現地生産や日中貿易が停滞する可能性がある。

日本経済と同様、東海経済は中国依存度を深めている。名古屋税関経由の貿易総額に占める中国の割合は年々上昇し、2012年度1-7月累計では、輸出先では米国に次ぐ第2位、輸入元としては第1位である。輸出入合計では第1位で、第2位以下を大きく引き離す（第1表、第2表）。

第1表：輸出上位10カ国（名古屋税関）

順位	国名	輸出額	単位: 億円、%	
			全体に占める 構成比	
1	米国	21,306	23.9%	
2	中国	12,578	14.1%	
3	タイ	5,491	6.2%	
4	オーストラリア	3,133	3.5%	
5	ロシア	2,881	3.2%	
6	韓国	2,632	2.9%	
7	台湾	2,565	2.9%	
8	ドイツ	2,472	2.8%	
9	インドネシア	2,283	2.6%	
10	サウジアラビア	1,854	2.1%	
全体		89,276	100.0%	

第2表：輸入上位10カ国（名古屋税関）

順位	国名	輸入額	単位: 億円、%	
			全体に占める 構成比	
1	中国	11,235	21.1%	
2	サウジアラビア	6,618	12.4%	
3	カタール	4,599	8.6%	
4	米国	3,248	6.1%	
5	インドネシア	2,880	5.4%	
6	オーストラリア	2,168	4.1%	
7	タイ	2,086	3.9%	
8	韓国	1,993	3.7%	
9	マレーシア	1,834	3.4%	
10	ドイツ	1,771	3.3%	
全体		53,282	100.0%	

（資料） 名古屋税関「管内貿易概況」他より三菱東京UFJ銀行経済調査室作成

▶ 東海経済の柱である自動車・同部品と工作機械への影響が懸念される

中国向け輸出では「自動車部品等」が最大の品目で、中国向け輸出全体の21.6%を占める（第3表）。また、同品目の輸出全体に占める中国向け比率は24.3%と、輸出額全体に占める中国比率14.1%を大幅に超過しており、中国依存度が高い。自動車産業の生産・雇用の波及効果は大きく、日本製品に対する不買運動が高まりをみせるなどの事態に至れば、東海経済にも大きな悪影響が及ぶことは避けられない。

中国向け輸出で第2位の工作機械等を含む「金属加工機械」は一般消費者向けではなく産業界向けであること、また受注産業で納入リードタイムが相対的に長いことから、短期的な輸出・生産動向に関する影響は自動車部品等よりは小さいものと考えられる。しかし、現在中国からの工作機械受注を支えている

のは日系自動車メーカー等の中国拠点の能力増強投資が中心であるため、日系自動車メーカーの中国内設備投資計画が今回の事態を受けて下方修正・延期される場合には、将来的に間接的な影響が出る可能性がある。

第3表：中国への輸出上位10品目（名古屋税関）

単位: 億円、%

順位	品目名	輸出額	全体に占める 構成比	中国向け 輸出比率	貿易特化 係数
1	自動車部品等	2,712	21.6%	24.3%	0.82
2	金属加工機械	697	5.5%	23.2%	0.82
3	自動車	621	4.9%	2.3%	0.99
4	電気回路等の機器	533	4.2%	25.4%	0.50
5	プラスチック	524	4.2%	29.0%	0.60
6	半導体等電子部品	492	3.9%	26.1%	0.50
7	電機計測機器	444	3.5%	18.8%	0.75
8	原動機	410	3.3%	9.9%	0.52
9	鉄鋼	383	3.0%	16.6%	0.36
10	事務用機器	307	2.4%	20.5%	-0.11
	全体	12,578	100.0%	14.1%	

(注) 貿易特化係数は、1に近いほど輸出に特化し、-1に近いほど輸入に特化、0は輸出入が均衡した状態を表す。

(資料) 名古屋税関「管内貿易概況」他より三菱東京UFJ銀行経済調査室作成

第4表：中国からの輸入上位10品目（名古屋税関）

単位: 億円、%

順位	品目名	輸入額	全体に占める 構成比	中国からの 輸入比率	貿易特化 係数
1	衣類及び同付属品	1,429	12.7%	85.3%	-0.95
2	通信機	810	7.2%	78.6%	-0.92
3	織物用糸及び繊維製品	492	4.4%	58.3%	-0.54
4	音響・映像機器(含部品)	484	4.3%	65.3%	-0.60
5	絶縁電線及び絶縁ケーブル	476	4.2%	40.4%	-0.61
6	事務用機器	385	3.4%	69.1%	-0.11
7	金属製品	356	3.2%	48.4%	-0.10
8	家具	331	2.9%	52.1%	-0.44
9	玩具及び遊戯用具	285	2.5%	93.8%	-1.00
10	重電機器	277	2.5%	71.1%	-0.22
	全体	11,234	100.0%	21.1%	

(注) 貿易特化係数は、1に近いほど輸出に特化し、-1に近いほど輸入に特化、0は輸出入が均衡した状態を表す。

(資料) 名古屋税関「管内貿易概況」他より三菱東京UFJ銀行経済調査室作成

(H24.9.27 富田 潤 jiyun_tomida@mufg.jp)

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、金融商品の売買や投資など何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、すべてお客様自身でご判断下さいませよう、宜しく願い申し上げます。当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、当室はその正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。また、当資料は著作物であり、著作権法により保護されています。全文または一部を転載する場合は出所を明記してください。